

トランプは朝鮮半島での戦争挑発を直ちにやめろ!



数百万の犠牲者が出る戦争絶対反対

空母機動部隊を直ちに引き上げる
自衛隊を協力させるな

戦争ではなく話し合いで解決しろ

2017年4月16日

4月16日 北朝鮮 ミサイル発射も失敗か

- 朝鮮半島の政治的軍事的緊張が高まる中での発射
取り巻く状況
- 中国「朝鮮半島は嵐の前夜、戦争が起これば誰も勝者になり得ない」
ロシア・韓国に協力要請
- 北朝鮮「あらゆる挑発を・超強硬対応で粉碎する」
昨日は軍事パレードで米けん制、続いてミサイル発射
- トランプ「北朝鮮は問題であり対処する」
- ロシア 朝鮮半島の非核化は交渉で

4月6日 一方的攻撃——シリア

- 4月4日 シリア北部イドリブ県ハン・シェフーンで化学兵器が使われ80人が死亡したと速報
- トランプ政権はシリア軍が化学兵器を使用したと一方的に決めつけ
- 4月6日に地中海のミサイル駆逐艦から59発の巡航ミサイルを発射し、シリアのシャイラート空軍基地を攻撃
- 民間人9人を含む15人が死亡した



どうしてトランプはシリアを攻撃したのか?

- 「アサドは一線(化学兵器)を越えた」というけれど、
- ①本当にアサドが化学兵器を使ったのか?
- ②なぜ急いで攻撃したのか
- ③トランプの目的は何か
- 本当は、「やるときはやる」と軍事力行使を誇示したかったのではないのか

①本当にアサドが化学兵器を使ったのか？

- 国連安保理が検証を要求している最中に攻撃が行われた
- トルコは「サリンだ」といい、化学兵器禁止機関(OPCW)は「化学兵器はありうる」という
- トランプ(米)は「アサドだ」、メイ(英)は「可能性は極めて高い」
- アサド(シリア)は「使っていない。使う必要が無い」「米やアルカイダのでっち上げだ」ロシアは「反政府勢力の武器庫(倉庫)を爆撃したら、そこに化学兵器の材料があった」
- 2013年 シリアはOPCWの下で化学兵器を廃棄した。そのあと、政府軍、反政府軍、IS系いずれも化学兵器を使用したと非難を受けている。どの勢力も化学兵器を持っていた。

アサドが化学兵器を使う必要があったのか

- アレッポ解放以降、政府軍は軍事的には優勢であった。
- 政治的にはロシアとアサド政権の主導権のもとで和平協議が進んでいた
- わざわざ国際的な非難を受けてまで化学兵器を使う必要はなかった
- シリアには必要性はない

米軍がシリアに巡航ミサイル攻撃

内戦が続くシリアでアサド政権軍の支配下にある空軍基地に対し、米軍が4月6日、数十発の巡航ミサイルを撃ち込んだ。撃ち込まれた化学兵器を使用したとみられる空爆によって多数の死者が出たことを受けた対抗措置。



②トランプは、なぜ急いで攻撃したのか

- 4月4日 シリアが化学兵器を使用とメディアが報道 攻撃は3日23:30(米時間)
 - 4月5日 国家安全保障会議NSCで3つの選択肢
 - 4月6日 午後4時 NSCで攻撃開始を命令 午後8時半 米中首脳会談の後で 習近平氏に通告
- わずか2日半で、事実を確かめ、出撃基地を確認し 攻撃目標を設定し、攻撃命令をだす 早すぎる やらせの可能性も否定できない

米軍のシリア攻撃決定を巡る動き

※白紙から米東部時間

4月3日 夜	シリア北西部で住民を標的にした化学兵器攻撃が発生
4日 午前10時	トランプ大統領が国家安全保障担当補佐官との定例会議で第一報を受ける
4日中に	パノン氏が国家安全保障会議(NSC)閣僚級委員会の常任メンバーから外れる
4日夜、3日午前	NSC会合、選択肢を絞り込む
5日 午後3時	NSC閣僚級委員会で、トランプ氏に3つの選択肢提示
6日 午後1時半	米中首脳会談に向かう機上でテレビ会議
午後4時	NSC閣僚級委員会で攻撃実施の最終決定
午後7時40分	地中海の米駆逐艦2隻がシリア攻撃を開始



③トランプの目的は何か

- 失策続きの支持率低下を軍事力行使で食い止めること
- ロシア協調派のパノンから対口対決派のネオコンに乗り換えること
- シリア和平過程に介入すること(めどなし)
- 一方的軍事力行使をする力があると見せつけること
- 北朝鮮に攻撃されたくなければ、核・ミサイル開発やめろとどう喝すること
- 中国に、対北朝鮮で強硬な経済制裁をしなければ、勝手に行動して戦争になっても知らんぞとどう喝すること

今度は北朝鮮が標的だ



- 4月7日以降、対北朝鮮(朝鮮民主主義人民共和国)に対する米の圧力強まる。
- 中国が制裁で協力しないと、米国は「単独行動の用意ある」
- 原子力空母カールビンソンを朝鮮半島沖に呼び戻す
- 瀬戸際政策の強化
- 日本や韓国のメディアで急速に緊張の高まり報道——NBCTVは核実験があれば攻撃実施と報道

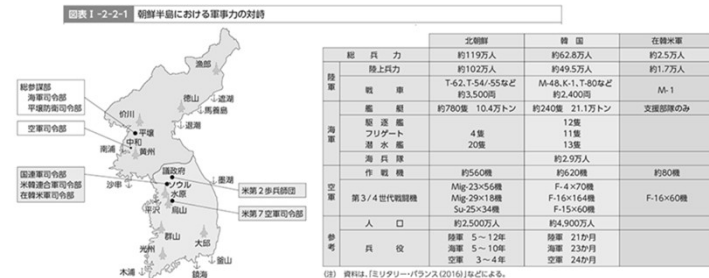
一方的攻撃をするか

- シリアのように、北朝鮮でも一方的攻撃(限定攻撃)は可能か？
 - 中東とアジアの2つの戦線は可能か？
 - ミサイル発射機(固定)だけ攻撃の「限定攻撃」でも、反撃は必至
 - 一旦武力行使になれば米韓日を巻き込む全面戦争になる
 - 被害はとんでもない規模になる
- 94年は韓国人100万人、米国人10万人の犠牲と米政府は見積もった
その時は北朝鮮は核実験前だった。いまは状況が違う
- 常識的にはあり得ない。しかし、トランプだからするかもしれない。

北朝鮮は脅威のウソ

- 4月5日 北朝鮮がミサイル発射「脅威は新しい段階に」(安倍首相)
- メディアでも北朝鮮の脅威が繰り返される 何をするかわからない国
- 実際には脅威を感じているのは北朝鮮の側
- ①圧倒的な軍事力の差
- ②大規模な軍事演習の脅威
- ③休戦/いつ攻められるかの圧迫

米韓日の圧倒的な軍事力優位



通常兵力では圧倒的な差。北朝鮮指導部は、通常戦力の差を核爆弾と長距離ミサイルでうめて防衛力とする戦略をとっていると考えられる

恐怖をもたらす大規模な軍事演習

- 史上最高31万人以上が参加した
米韓合同軍事演習
- ステルス機による先制奇襲攻撃
- 最高指導者暗殺を狙う「誡首作戦」
- 特殊部隊を投入する核・ミサイル開発破壊作戦
- 共同作戦計画OPLAN5027での
先制攻撃戦略への転換



北朝鮮の核ミサイル開発の現状

北朝鮮は、核ミサイルの開発を進め、長距離ミサイルの試射に成功している。最新のミサイルは、射程が10,000kmに達し、北極圏まで届く能力を持つ。また、核弾頭の小型化も進んでいるとされている。

北朝鮮の核ミサイル開発の現状

北朝鮮は、核ミサイルの開発を進め、長距離ミサイルの試射に成功している。最新のミサイルは、射程が10,000kmに達し、北極圏まで届く能力を持つ。また、核弾頭の小型化も進んでいるとされている。

北朝鮮の核ミサイル開発の現状

北朝鮮は、核ミサイルの開発を進め、長距離ミサイルの試射に成功している。最新のミサイルは、射程が10,000kmに達し、北極圏まで届く能力を持つ。また、核弾頭の小型化も進んでいるとされている。

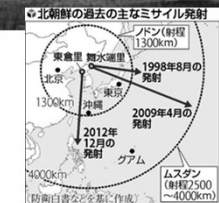
米韓の大規模な空軍力、空母機動部隊、ステルス爆撃機、ステルス戦闘機、上陸部隊と特殊部隊——大規模演習はいつ実戦になっても



- 北朝鮮攻撃にやる気あふれる安倍首相
- カールビンソンの護衛(訓練)をやらせて下さい
 - 攻撃するなら(手伝いますので)事前に教えてください
 - 拉致被害者の救出に協力してください
 - 北朝鮮もサリン弾頭をもっています(一線を越えていますヨ)

戦争の被害は大変な規模に

ソウルは国境から60km 長距離砲や多連装ロケットなどの射程内。ソウル中心部に米軍龍山基地。開戦になればとんでもない被害がでる。日本も枠外ではない。スカッドER、ドンは日本に届く。数百発ある。ミサイル防衛では迎撃できない。

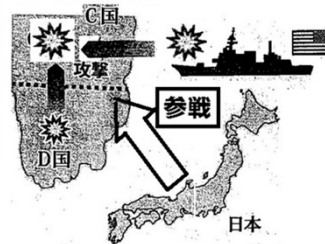


またもや加害国に一戦法で一変した立場

空母護衛は極めて危険。戦争が始まれば、最初から攻撃に参加したいという安倍首相の願望。集団的自衛権の下では米が一方的攻撃を行い、戦闘になれば、日本は直ちに参戦することに



存立危機事態



直ちに戦争反対の声を

- 4月15日 金日成生誕105周年 25日人民軍創設85周年と記念日が続く
- 核実験／ミサイル発射をする可能性
- 北朝鮮／米国の間でどう喝の応酬・瀬戸際政策
「核実験すれば攻撃」「敵の本拠地を攻撃できる準備はできている」
- 直ちに戦争挑発・攻撃反対の声を上げる必要
- もし一旦収まっても、トランプは大陸間弾道弾の完成を「最後の一线」としており、近い将来にトランプの側から攻撃を仕掛ける危険性が増大していく
- 運動の力で対抗し、政治的交渉で解決するよう押しつけるしかない

戦争をさせるな!



- 4月7日ニューヨークユニオンスクエアに集まったシリア攻撃に反対する人々